

1 4	岡崎	翔南中学校	ナカシマ ハルト 氏名 中嶋 温斗
分科会番号	0 8	分科会名	音楽教育

1. 研究テーマ

音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって歌うことのできる生徒の育成
～1年生「浜辺の歌」の授業実践を通して～

2. 研究概要

(1) はじめに

本校の1年生の生徒は、音楽の授業に意欲的に取り組むことのできる生徒が多い。授業では、歌唱活動において、歌の得手不得手に関わらず、学んだ音楽表現を自身の歌唱に生かそうと前向きに取り組む姿が見られる。しかし、音楽表現を考える場面では、一部の生徒が音楽面でリードし、それに大多数の生徒が続くという場面も少なくない。

個々の生徒が思いや意図をもち、主体的に創意工夫しながら音楽表現を行う力がどの程度育っているのかを把握するため、1学期途中にアンケートを実施した。

「歌を歌うことは好きですか」という問いに対しては、「好き」の度合いの最大を10として平均6.74ポイントであった。また、「歌唱で、こんな風に歌いたいという思いをもち、それを表現することができていますか」という問いに対しては、「できている」の度合いの最大を10として、平均5.88ポイントであった。これらのことから、歌うことを肯定的に捉える生徒は多い一方で、自分の思いや意図をもち創意工夫しながら表現することには、自信をもてていない生徒が少なくないことが分かった。

そこで、思いや意図をもち、創意工夫を生かした音楽表現を考え、歌うことのできる生徒の育成を目指したいと考え、本研究主題を設定した。

(2) 目指す生徒像

- A 音楽的な見方・考え方を働かせ、曲想や楽曲の背景を根拠として、自らの思いや意図をもつことができる生徒。
- B 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識や技能を身に付け、それらを活用して主体的に歌唱表現を工夫することができる生徒。

(3) 研究の仮説と手立て

仮説1 音楽の特徴や楽曲の背景を捉え、楽曲へのイメージや理解を深めることができれば、思いや意図をもつことにつながられるだろう。

【手立て①】舞台となった浜辺の写真の掲示や、複数の演奏者や演奏形態による「浜辺の歌」の演奏を聴くなど、楽曲へのイメージを豊かにし、楽曲への関心を高め、親しみをもてるようにする。

【手立て②】楽譜上の音楽記号や楽曲の背景、歌詞などを調べる活動をとおして、音楽を形づくっている要素と関連付けながら、思いや意図の根拠をもつことができるようにする。

【手立て③】思いや意図とそれを実現する手立ての2つを書き込んだ「歌い方マップ」を作成すること

で、楽曲に対する思いや意図を明確にし、それを実現するための表現方法を考えることができるようにする。

【手立て④】音楽から感じ取ったことや思いを言語化するために、感じたことを表す言葉の表である「音楽の感じシート」を用意し、活用する。

仮説2 歌唱表現に必要な技能を身に付けるとともに、その技能を活用して表現を試したり、他者の表現に触れたりする場を設定すれば、自らの思いや意図を生かして歌唱表現を工夫しようとすることができるだろう。

【手立て⑤】身に付けた技能を活用しながら表現を試行錯誤できるようにするために、チーム学習において互いの声を聴き合ったり、録音しながら練習したり、振り返りを積み重ねたりすることで、表現の変容や高まりを実感し、自己やチームの成長を捉えられるようにする。

【手立て⑥】クラス内の他グループの発表を聴き、多様な思いや意図に触れるとともに、表現の工夫やその効果に気づき、相互評価を通じて良さを改善点を共有することで、自らの表現の幅を広げられるようにする。

3. 実践と考察

(1) 抽出生徒の設定

生徒1名を抽出生徒として設定し、その変容を追うことで実践を検証する。

生徒A：授業に対して意欲的に取り組み、歌唱が好きと答えている生徒である。しかし、授業の見取りや歌唱テストの様子から、意欲的に歌唱表現に取り組む一方で曲想や歌詞の内容を踏まえた表現の工夫には課題が見られる生徒である。また、「歌唱で自分がもった思いを音楽で表現する方法はわかりますか。」という問いに対して、「あまりわからない」と回答している。今回の実践を通して、曲想に合った思いや意図をもち、それを表現していくことができるようになってほしいと願い、抽出生徒に選出した。

(2) 授業構想

浜辺の歌がどんな歌なのか楽曲分析をしよう（第1時）

【手立て①】【手立て②】

- ・歌詞は、朝の浜辺と夕方の浜辺、昔の出来事や人のことを思い出しているんだね。
- ・波のような感じがするのは8分の6拍子のリズムやクレシェンド、デクレシェンドなどの強弱がつけられているからだね。

「浜辺の歌」に込められた思いや曲想を生かすにはどのように表現したらよいだろう（第2、3時）

[第2時]歌詞や情景、音楽の特徴を根拠に表現を工夫する

【手立て③】【手立て④】

- ・穏やかな波の様子を強弱で表現したいな。
- ・形式がBの部分に変化するから、特別な気持ちで歌いたいよ。
- ・思い出に浸りながら歩いている感じを表現したいね。

●辻堂海岸の写真や映像、様々な演奏音源を流し、浜辺や海に対するイメージをふくらませ、関心を高められるようにする。

【手立て①】

●楽譜上の音楽記号や背景を調べたり、音楽を形づくっている要素と関連付けたりすることで、思いや意図の根拠をもてるようにする。【手立て②】

●「音楽の感じシート」を活用しながら、思いや意図と手立てを記入した「歌い方マップ」を作成し、思いや意図をもち表現できるようにつなげる。

【手立て③④】

[第3時]チームの思いを手立てと結びつけて表現する

【手立て⑤】

- ・クレシェンドはできているけど、デクレシェンドがうまくできていないよ。
- ・fで歌う前に全員で息継ぎをしっかりとろう。
- ・リズム感をもって歌うために手拍子をしながら歌おう。

各チームの思いのこもった「浜辺の歌発表会」をしよう（第4時）

【手立て⑥】

- ・聴き手に思いを伝えるには、表情や姿勢などもとても大切だと思ったよ。
- ・イメージをもって歌うだけで声の音色が変化するね。
- ・口を縦に開けて、喉を開くと響きのある声になって曲の雰囲気にあっていたよ。

●録音などを用いながら話し合ったり、表現を振り返ったりし、チームの表現を高められるようにする。

【手立て⑤】

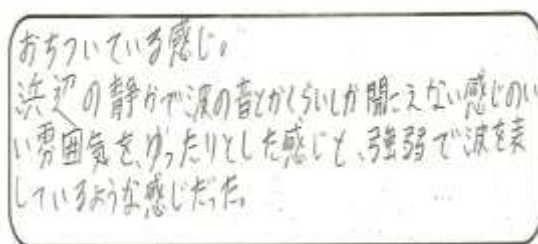
●お互いのチームの演奏を聴き、相互評価しながら、多様な思いや意図に触れ、手立ての効果を実感することで、さらに音楽表現の幅を広げる

【手立て⑥】

（3）実践

①第1時 浜辺の歌がどんな歌なのか楽曲分析をしよう

授業の導入では、今までの学習の過程をたどり、日本で長く歌われ親しまれている楽曲であることを理解するために、既習の「海」にまつわる楽曲を久しぶりに歌唱した。その後、教師の範唱により「浜辺の歌」を鑑賞し、「特徴や雰囲気について気づいたこと・感じたこと」について考え、話し合った。生徒Aは、「落ち着いている感じ。浜辺の静かで波の音とかくらしが聞こえない雰囲気を、ゆったりとした感じと、強弱で波を表しているような感じだった。」と記述している。



資料1

生徒Aの第一印象の記述

資料1

楽曲に出会ったタイミングで、「アナリーゼタイム」と題して、楽譜から読み取れること、楽曲の背景についての2つの側面から楽曲について生徒自身で捉える活動を行った。旋律の側面から16分音符が多いこと、伴奏の音型、強弱の側面からクレシェンド、デクレシェンドが多いことなど、音楽を形づくっている要素と結びつけて考えることができた。また、歌詞の内容では、朝と夕方の対比になっていること、昔の出来事と昔の人の対比になっていること、浜辺を歩きながら過去の思い出を回想している様子、3番の存在などを教科書やタブレットを活用して調べ、理解することができた。

【手立て②】

また、情景へのイメージをふくらませるために辻堂海岸の朝と夕方の写真を掲示した後、歌詞に合わせて情景が変化していく動画を視聴し、再度授業の最後に歌唱した。

資料2

振り返りシート記入時には、男声ソロ、女性ソロ、合唱、ヴァイオリンなど、様々な演奏形態の音源を流し鑑賞した。鑑賞中には、ヴァイオリンの音色にうっとりした表情を見せる様子や、合唱の軽やかな速度に「はやっ」と思わず声に出す様子なども見られた。

【手立て①】



資料2

掲示した辻堂海岸の画像

②第2、3時 「浜辺の歌」に込められた思いや曲想を生かすにはどのように表現したらよいだろう

[第2時]歌詞や情景、音楽の特徴を根拠に表現を工夫しよう

前時に視聴した辻堂海岸の風景をいつでもイメージできるように、音楽室に浜辺の歌に出てくる風景の写真を掲示した。【手立て①】思いや意図をもって表現を工夫できるようにするために、スクールタクトを使った「歌い方マップ」を用いる。また、思いや意図の言語化の一助となるように「音楽の感じシート」を配布し、必要に応じて活用させた。【手立て③】 【手立て④】 **資料3**

音楽の感じシート			
気分	感じ	気分	感じ
清く	おだやか	おもしろい	ほろりとした
爽やか	静かな	生き生きとした	新鮮な
思い	ゆつたりとした	うきうきとした	静かな
いた	ほろりとした	ときめく	
	神秘的な		

気分	感じ	気分	感じ
やさしい	優しい	なめらかな	
	あたたかな	さわやかな	
	夢見るような	雄大な	
	やわらかな	流れるような	

気分	感じ	気分	感じ
ほろりとした	静かな	静かな	
静かな	静かな	静かな	
静かな	静かな	静かな	
静かな	静かな	静かな	

資料3

音楽の感じシート

音楽を形づくっている要素の「音色」「強弱」「旋律」「速度」「リズム」に「歌詞」を加えた6観点に焦点化し、それぞれマップに音楽表現の工夫を書き込んでいく。こんな風に歌いたいという思いや意図をピンクの枠で、それを実現するための歌い方の手立てを青の枠でマップに記入をした。抽出生徒Aのいるチームでは、まず、第2フレーズに着目し、昔のこと（思い出）を思い出している様子に注目した。思い出が作曲者にとってどんな思い出なのか話し合い、「しのぼるる」という歌詞の現代語訳を根拠に、楽しくうきうきした思い出ではなく、切なく落ち着いた思い出であると考えた。そして、「しのぼるる」という歌詞と「弱く」という強弱記号を関連付けて、ただ弱く歌うのではなく「切なく」歌うことに決めたチームの様子が見られた。**資料4**

次に、第3フレーズに注目し、楽曲の山場であること、第2フレーズと比較して、歌詞の視点が過去の回想から現在の情景への切り替わることを伝えたいという思いをもち、息の量を多くして響かせて歌うという手立てを考えた。**資料5**

【第2フレーズ】



「しのぼるる」には「懐かし
思う」「心に思い出す」な
どの意味があるから、少し切
ない感じで歌いたい。

Pがあるけど、「弱く」じゃなく
て「切なく」だと思って歌う。

クレシェンドとデクレシェンドに
意識して、声の響きに注目する

資料4

生徒Aのチームの歌い方
マップ（第2フレーズ）

【第3フレーズ】



ここは曲の山場だと思うし、過
去を思い出すのではなく今を見
ているから、情景の切り替わり
がわかるように歌いたい。

過去を思い出す切ない感じをス
ラーでこれまでは出していたけ
ど、山場のスラーは息の量を多
くして響かせてうたう。

資料5

生徒Aのチームの歌い方
マップ（第3フレーズ）

[第3時]チームの思いを手立てと結びつけて表現しよう

前時に作成した歌い方マップをもとに、もった思いや意図を実現するために考えた手立てを生かして表現を深めていく。歌唱練習の前に、ただ歌うだけに終始させないために、次の発表会での評価基準を示し、達成してほしい姿を共有することにした。**資料6**

そして、表現を客観視するために、録音スペースを設け、録音を聴きながらチームの演奏を全員で振り返れるようにした。

【手立て⑤】

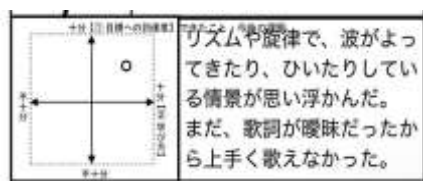
◎	○	△
浜辺の歌をこんな風に歌いたいという思いをもち、手立てを工夫して歌で表現することができる。	浜辺の歌をこんな風に歌いたいという思いをもって歌える。	浜辺の歌が歌えている。

資料6

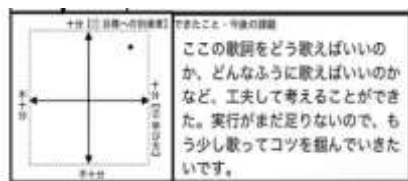
評価のループリック

初めに、生徒Aのチームは録音をし、全員で演奏を振り返った。資料7すると、①クレシェンドやデクレシェンドによる強弱変化が十分に表現されていないこと②「しのぼるる」の部分の切なさが伝わってこないこと③山場が今一つ山になり切れていないこと④山場を迎えた後にも、すぐに失速してしまうことの4点を課題に挙げ、発表に向け練習を行っていた。また、ここまでの振り返りの積み重ねでは、左側のグラフを見ると、目標への到達度、学び方においてともに高い自己評価をしていることが分かる。また、毎時ごとにできたことを認めたうえで、課題を見つけ、それぞれ学び方を自ら調整しながら、主体的に学習を改善しながら取り組んでいたと読み取れる。

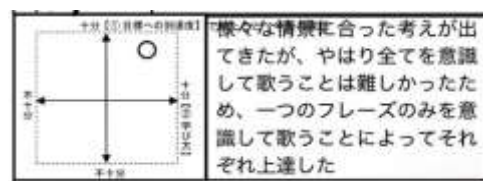
第1時の振り返り



第2時の振り返り



第3時の振り返り



資料7

生徒Aの第1時から第3時までの振り返り

③第4時 各チームの思いのこもった「浜辺の歌発表会」をしよう

クラス内の他グループの発表を、歌い方マップを見ながら聴き、相互評価をする。【手立て⑥】

生徒Aのチーム(8班)の演奏を聴いた生徒の相互評価シートを見ると、「こえがきはきはきしていてしのぼるるの強弱がしっかりできていてすごかった」「クレシェンドやデクレシェンドなどの強弱がはっきりしていたし、表現もよく伝わってきました。」などと記載があり、思いや意図をもって表現を工夫してきた部分が聴き手に伝わったことが読み取れる。資料8

生徒Aは、演奏後、他のグループの演奏を聴き、「同じ歌詞で同じ楽譜の歌だけど、歌い方によって聴き手は、たくさんのイメージが浮かび上がった。旋律どおりに歌えばいいのではなく、その歌詞その歌詞でどんなイメージを聴き手に残したいかを考えることが、合唱(歌唱)のコツだと思った。」と振り返った。思いや意図による歌い方の違いから様々なイメージと結びつけ、聴き手を意識して思いや意図をもつことの大切さに気づくことができた読み取れる。資料9

4 考察

(1) 仮説に対する手立ての検証

仮説1 音楽の特徴や楽曲の背景を捉え、楽曲へのイメージや理解を深めることができれば、思いや意図をもつことにつながられるだろう。

班番号	評価 (丸をつける)	一言コメント
8班	思い・表現 ○・●・△	こえがきはきはきしていて、「しのぼるる」の強弱がしっかりできていてすごかった。
	強弱 ●・○・△	
	リズム ●・○・△	

班番号	評価 (丸をつける)	一言コメント
8班	思い・表現 ○・○・△	クレシェンドやデクレシェンドなどの強弱がはっきりしていたし、表現もよく伝わってきました。
	強弱 ○・○・△	
	リズム ○・○・△	

資料8

生徒Aの発表を聴いた生徒の評価

他グループの歌い方マップや発表を聞いて考えたこと・感じたことを書こう

それぞれの班の子1人1人が目標とする歌を持っていて、「浜辺の歌」の歌詞を理解して歌っていた。同じ歌詞で同じ楽譜の歌だけど、歌い方によって聴き手は、たくさんのイメージが浮かび上がった。旋律どおりに歌えばいいではなく、その歌詞その歌詞でどんなイメージを聴き手に残したいかを考えることが、合唱のコツだと思った。

資料9

生徒Aの他のグループを聴いた感想

【手立て①】舞台となった辻堂海岸の画像・映像を見せることで、風景に感動する声や、1番と2番の風景の違いを意識する声が上がった。また、様々な演奏形態の音源を流した際には、音色にうっとりした表情を見せる様子や、感想を言葉にする様子なども見られた。生徒Aの振り返りでは、「情景が思い浮かんだ」との記述がある。このような生徒の姿から、楽曲に対してのイメージを豊かにし、関心を高めることができたと考えられる。

【手立て②】「アナリーゼタイム」と題して行った活動では、楽曲から知覚・感受したことを、リズム、旋律、強弱、形式などの音楽を形づくっている要素と関連付けて考えた。そこで理解した音楽の特徴や楽曲の背景を、後から行う歌い方マップの作成における思いや意図の根拠とすることができた。

【手立て③】資料4の生徒Aのチームの歌い方マップへの書き込みには、歌詞の意味を根拠に思いをもち「pがあるけど弱くではなく切なくだと思って歌う」や「クレシェンドとデクレシェンドを意識して、声の響きに注目する」という手だてを考えた。また、資料5では、楽曲の構成や強弱、歌詞の意味を根拠に思いをもち、「過去を思い出す切ない感じをスラーでこれまでは出していたけど、山場のスラーは息の量を多くして響かせて歌う」というように、思いや意図をふまえて、手立てを考えることができた。

【手立て④】語彙力の乏しい生徒においては、どのような思いをもって歌うのかを、音楽の感じシートを見ながら適切な言葉を選んでいった。思いや意図を言語化するための一助となった一方で、生徒自身から出る思いや意図を反映しにくくなってしまったように感じる。今後は、使う場面を十分に見極めながら使用していきたい。

仮説2 歌唱表現に必要な技能を身に付けるとともに、その技能を活用して表現を試したり、他者の表現に触れたりする場を設定すれば、自らの思いや意図を生かして歌唱表現を工夫しようとすることができるだろう。

【手立て⑤】生徒Aは録音を通して自ら課題を見だし、思いや意図を実現するための表現方法を仲間と検討しながら練習を重ねていた。このことから、技能を活用しながら主体的に歌唱表現を工夫しようとする姿が見られたと考える。

【手立て⑥】資料8にあるように、生徒Aのチーム(8班)の演奏を聴いた生徒の相互評価シートを見ると、手立ての有効性が聴き手に伝わったことが読み取れる。資料9の振り返りからも、思いや意図による歌い方の違いから様々なイメージと結びつけ、聴き手を意識して思いや意図をもつことの大切さに気づき、自らの表現の幅を広げることができたと考えられる。

(2) 今後の課題

曲想や楽曲の背景を根拠に、思いや意図をもち、創意工夫を生かした音楽表現ができる生徒の育成を目指して実践を行った結果、歌唱表現には「歌唱の土台となる知識・技能」「思いや意図をもち、それを実現するための表現の工夫」「主体的に表現しようとする態度」の三者が相互に関連し合うことが分かった。これらは一つでも欠けると豊かな表現や達成感につながりにくく、三者を一体的に育成する指導が求められる。今後も生徒の実態に応じて育てたい姿を明確にし、資質・能力の三つの柱をバランスよく育みながら、音楽を表現することの楽しさを感じることで授業づくりに努めていきたい。また、相互評価や発表を通して得た学びを基に、表現を再度見直して改善し、再発表する機会を設けることで、さらなる表現の向上につながると考えられる。今後は、相互評価で得た気づきや学びを、次の表現に生かす時間を確保し、学びを調整し、より表現を深めていくことのできる授業デザインを構築していきたい。